

中間年評価 集落代表者アンケート調査結果（全507協定）

I 協定参加者について

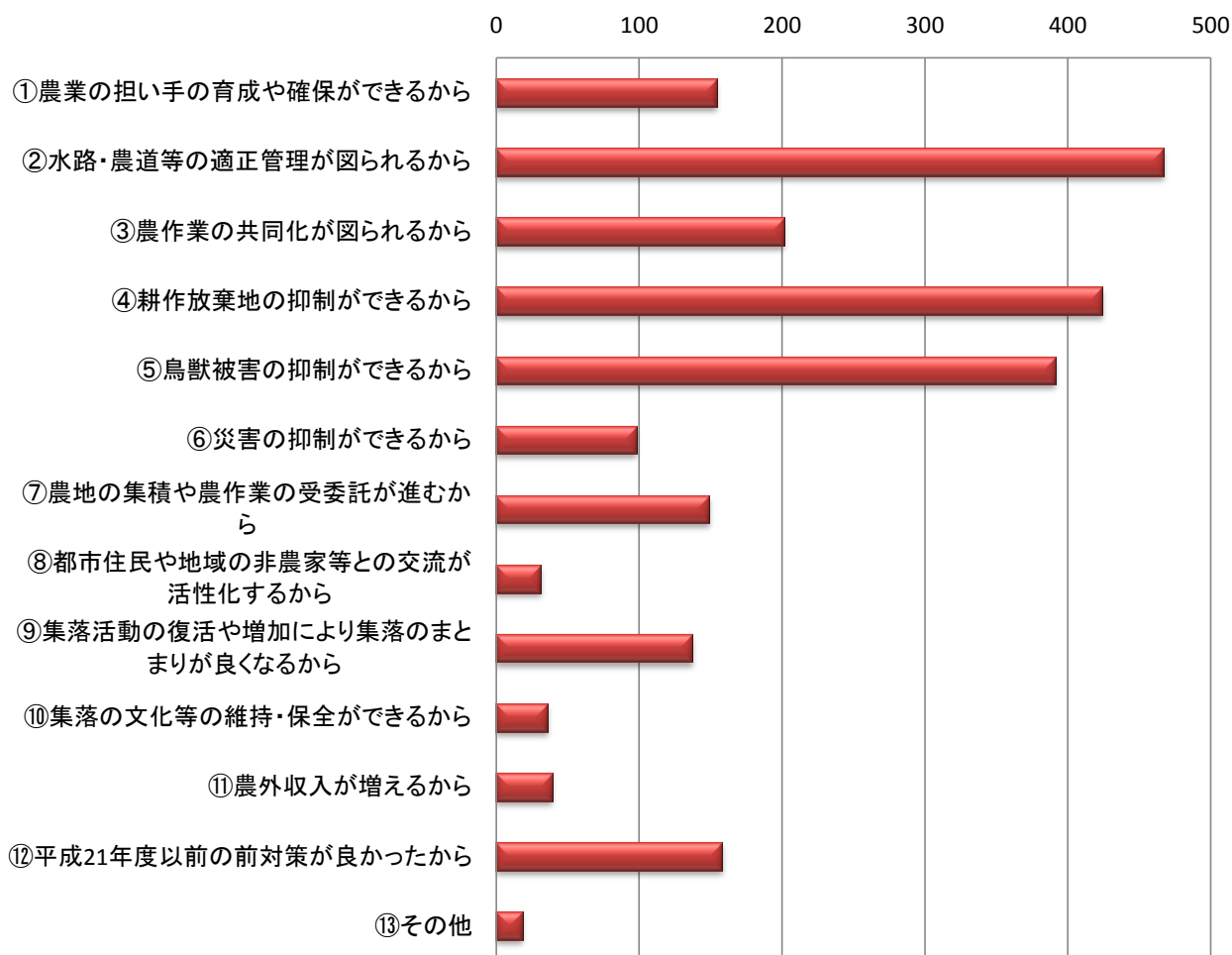
問1 協定参加者は何名いますか。年代別の人数を教えてください。

年齢区分	参加者		役員	
		うち女性		うち女性
40歳以下	203	11	31	1
41～45歳	305	8	73	0
46～50歳	564	30	152	1
51～55歳	986	33	305	1
56～60歳	1,547	54	448	1
61～65歳	2,392	126	698	4
66～70歳	1,876	169	405	8
71歳以上	5,147	816	569	16
合計	13,020	1,247	2,681	32

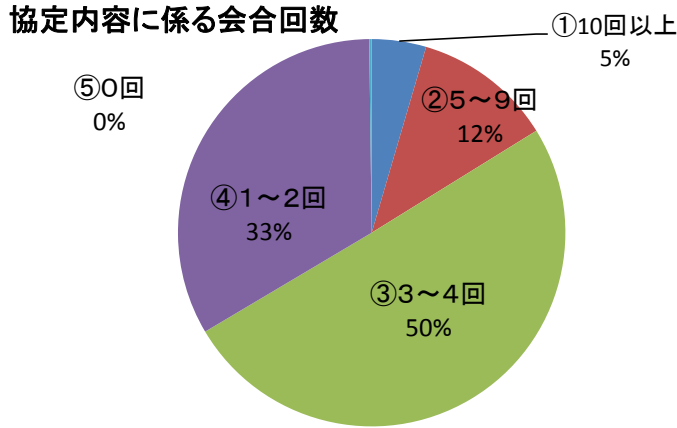
II 協定締結に至るまでの過程について

問2 協定締結した理由(目的)を教えてください。(複数回答可)

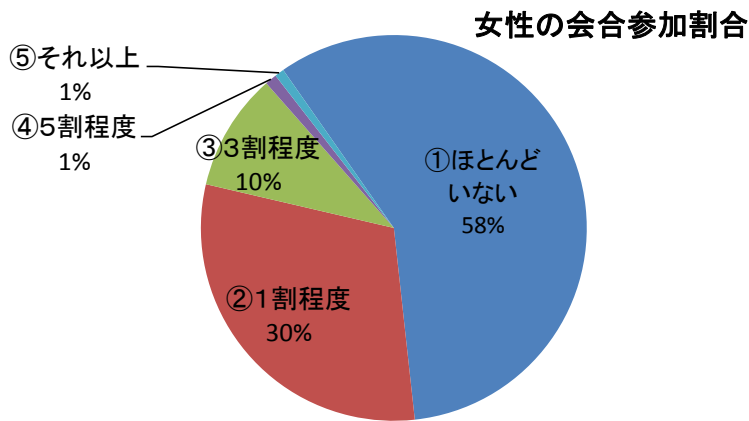
協定締結理由



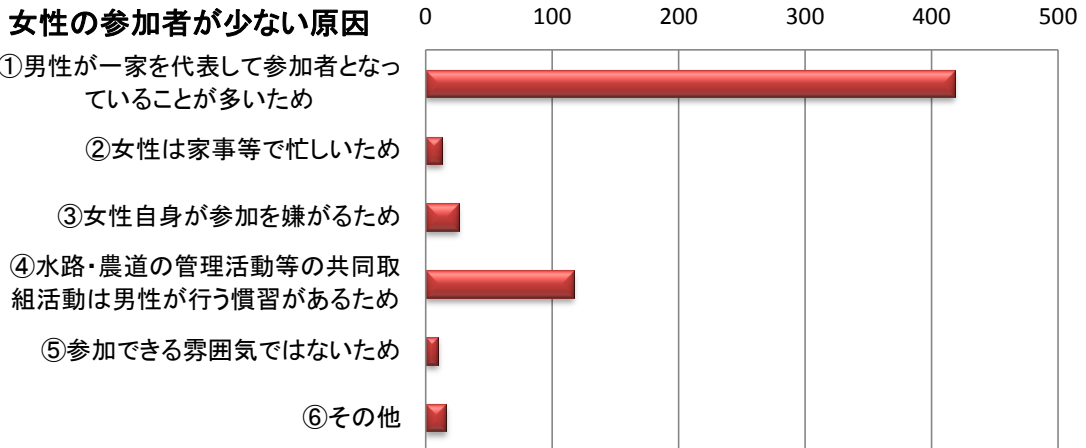
問3 協定締結に至るまでに、話し合いは延べ何回位行われましたか。



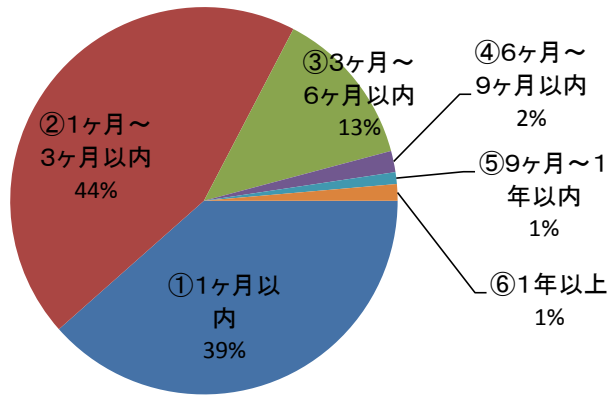
3-1 話し合いに女性の参加割合はどれくらいですか。



3-2 話し合いに女性の参加が少ないのはどのようなことが原因と考えていますか。(複数回答可)



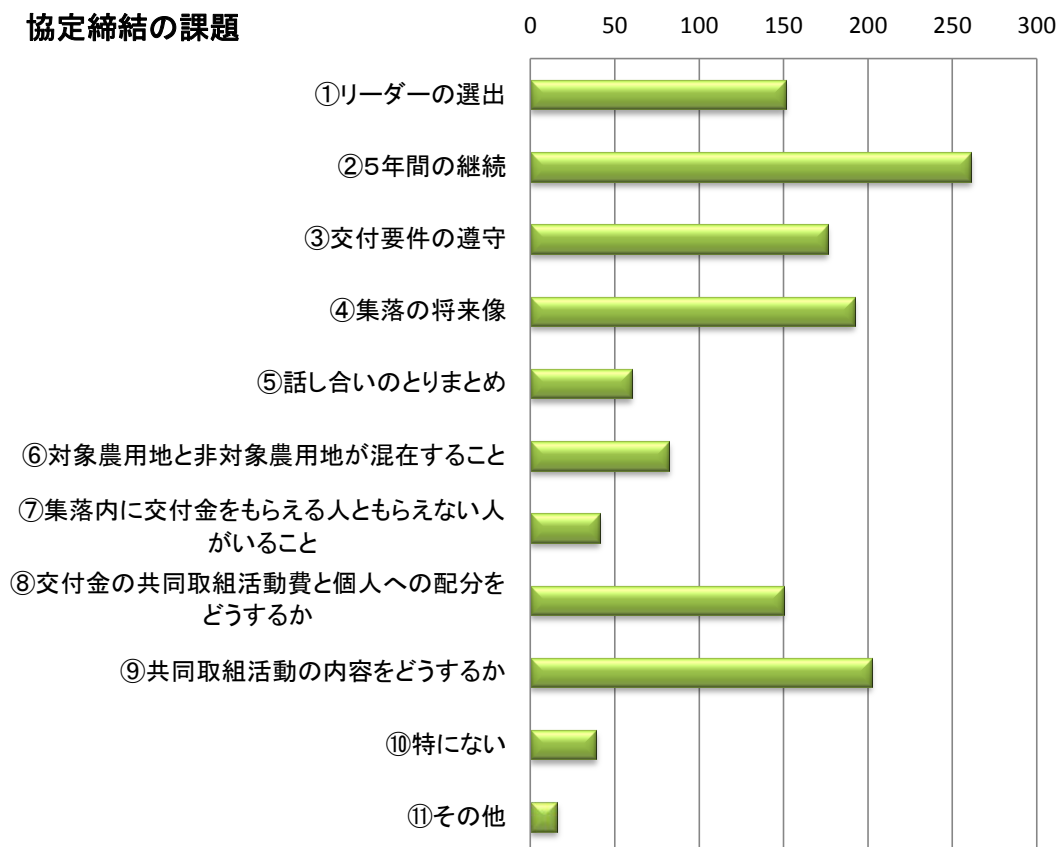
問4 協定締結に至るまでに、話し合いはどの位の期間行われましたか。



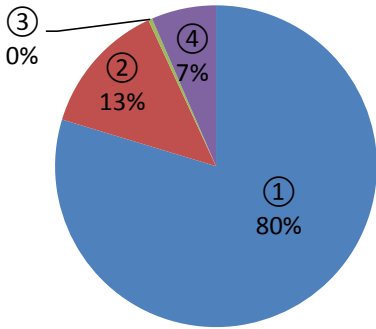
話し合いの期間(協定締結)

問5 あなたの集落では、協定締結に向けて主に何が課題となりましたか。(複数回答可)

協定締結の課題



問6 協定は前対策から引き続いて締結しましたか。

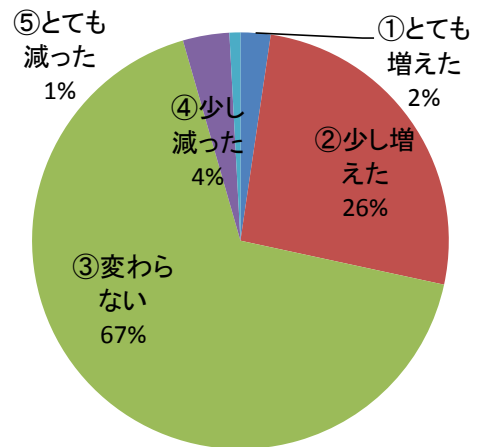
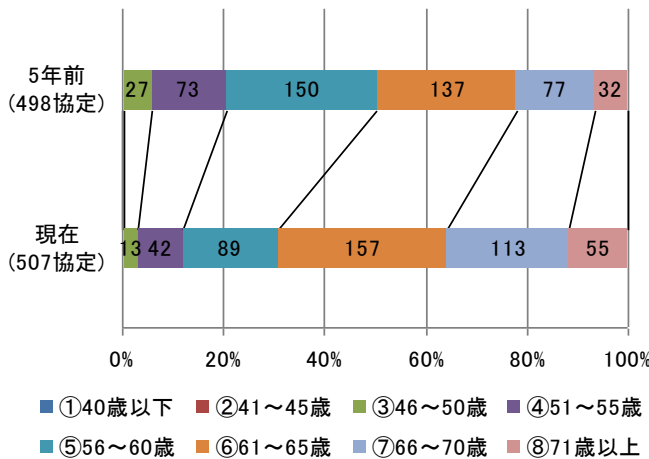


- ① 平成12年度からの第1期対策(H12~H16)から引き続いて締結している
- ② 第1期では取り組んでいなかったが、平成17年度からの第2期対策(H17~H22)から引き続いて締結している
- ③ 第1期で締結していたが第2期では取り組まず、第3期から再度締結した
- ④ 平成22年度からの第3期対策で初めて締結した

【問6で①又は②と答えた方にお聞きします。】

第2期対策のときの協定の役員の方の現在の平均年齢は何歳ですか。

第2期対策から第3期対策になり集落内の話し合いの議題(テーマ)の数は変わりましたか。



【問6で③と答えた方にお聞きします。】

第2期対策で一旦取組をやめた理由は何ですか。(複数回答可)

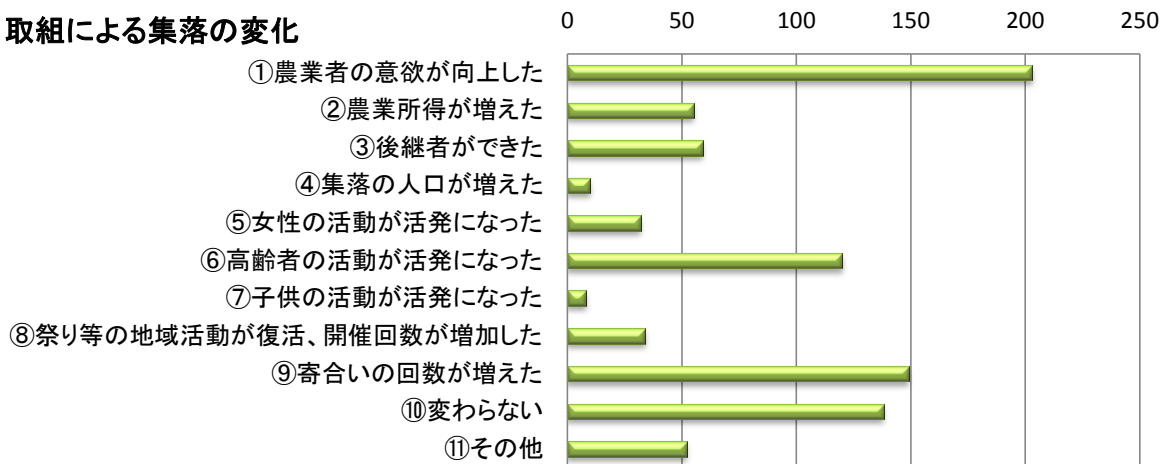
- ・5年継続
- ・リーダーの不在
- ・事務煩雑

第3期対策で再度協定を締結することとなったきっかけは何ですか。(複数回答可)

- ・要件緩和
- ・リーダーができた
- ・農地荒廃の危機感
- ・事務の簡略化

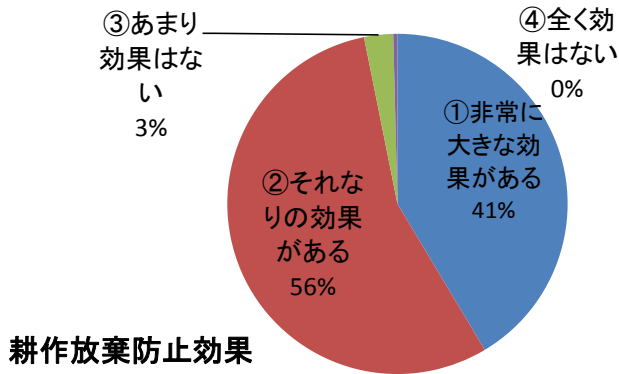
6-5 本制度への取組によって協定締結前と比べて集落がどのように変わったと感じますか。(複数回答可)

取組による集落の変化

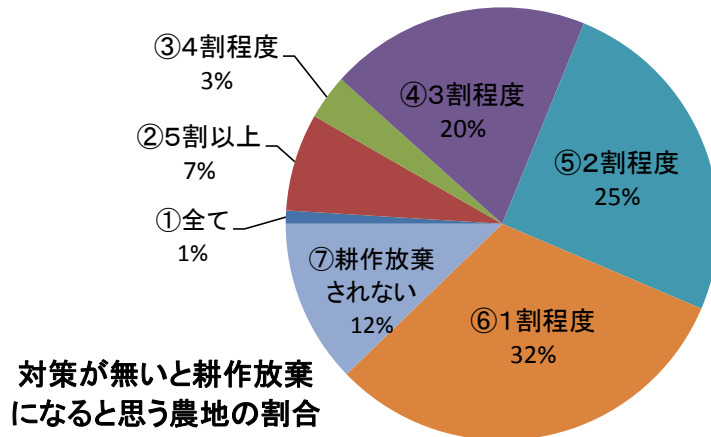


Ⅲ 耕作放棄地の発生防止・多面的機能の維持について

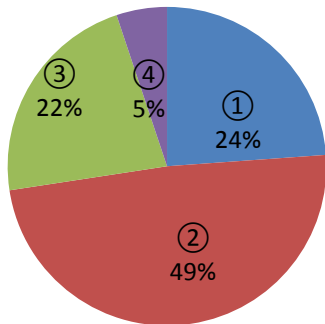
問7 中山間地域等直接支払制度は、耕作放棄地の増加を防止する効果があると思いますか。



問8 本制度に取り組んでいなければ、当該協定農用地については平成22年度から26年度の5年間でどのくらいの農用地が耕作放棄されると思いますか。

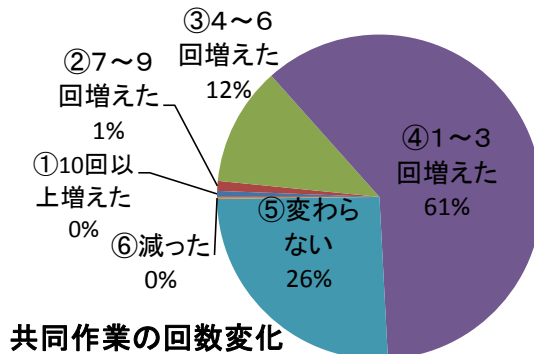


問9 集落全体での農地の法面や水路・農道等の管理に係る共同作業の状況について、協定締結前と現在ではどのように変わりましたか。



- ①協定締結前から活発に行われている
- ②協定締結前から行っていたが、協定締結を契機に活発に行われるようになった
- ③協定締結前はあまり行われていなかったが、協定締結を契機に活発に行われるようになった
- ④協定締結前からあまり行われていない

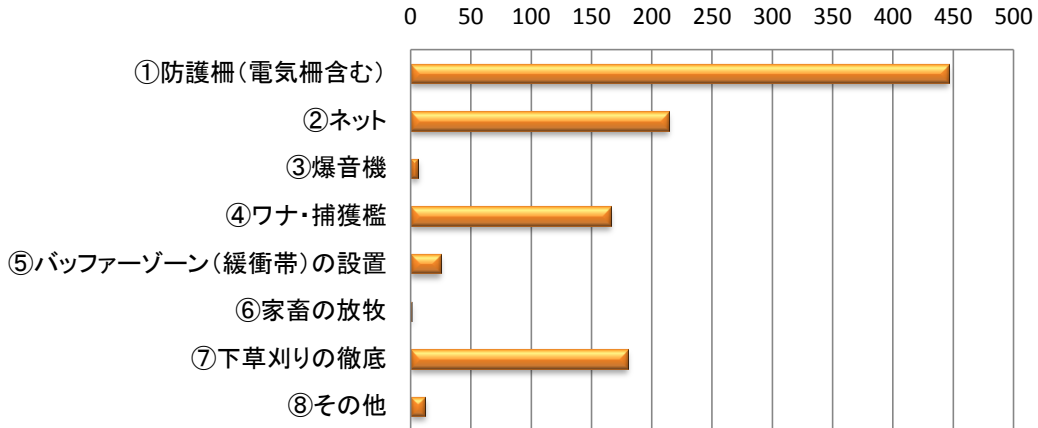
問10 集落全体での農地の法面や水路・農道の管理に係る共同作業の年間の回数は、協定締結前と現在ではどのように変わりましたか



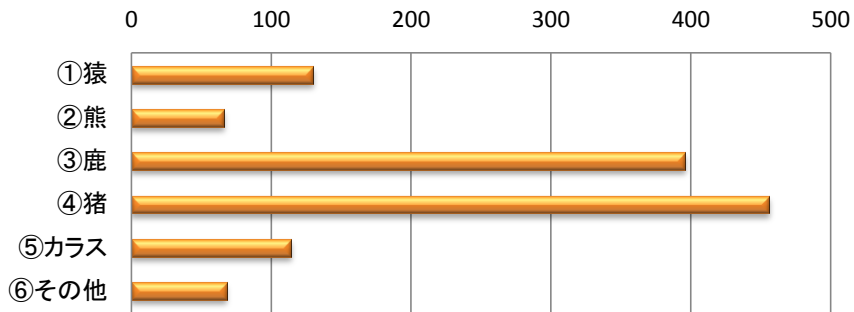
問11 鳥獣害対策で守られている当該協定農用地の面積はどれだけありますか。

4,889 ha
(交付対象面積 5,186 ha)

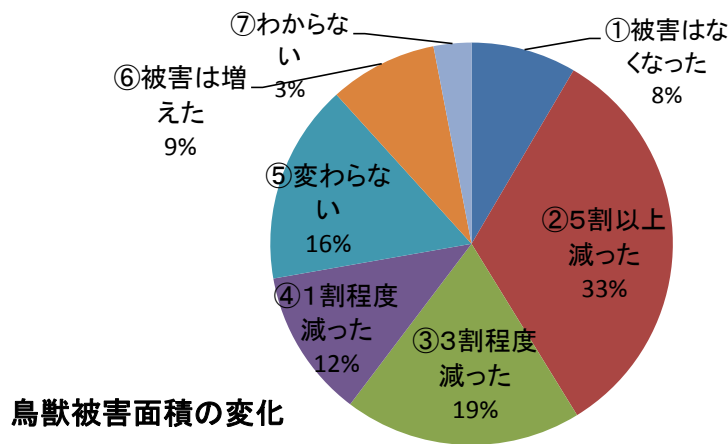
11-1 鳥獣害対策の種類はどのようなものですか。(複数回答可)



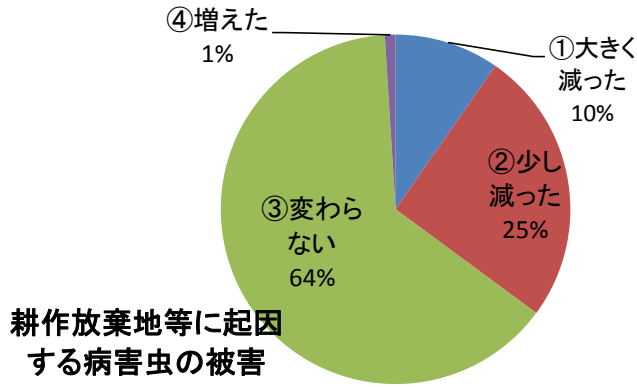
11-2 鳥獣の種類はどのようなものですか。(複数回答可)



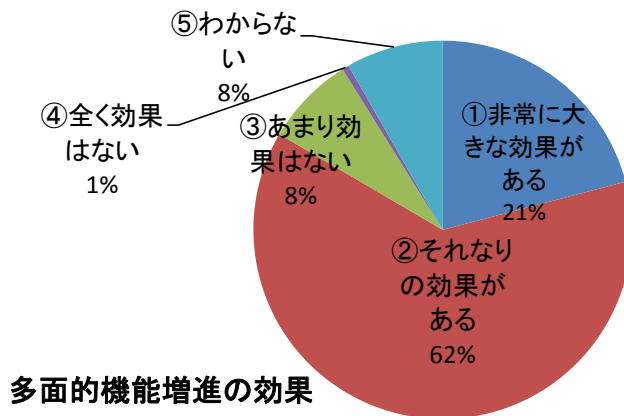
11-3 鳥獣による当該協定農用地の被害面積は、協定締結前と現在ではどのくらい変わりましたか。



問12 耕作放棄地等を発生源とする病害虫の被害は協定締結前と現在では変わりましたか。



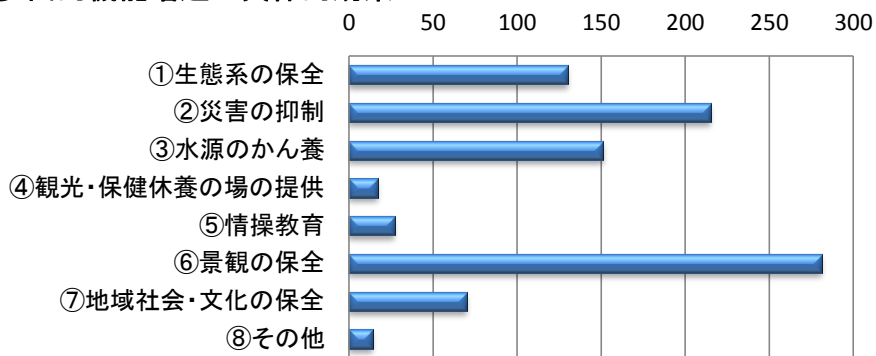
問13 本制度は、国土保全や保健休養機能等の多面的機能を増進、維持保全する効果があると思いますか。



13-1 【問13で①又は②と答えた方にお聞きします。】

多面的機能の増進または発揮として具体的にどのような効果があったと感じますか。(複数回答可)

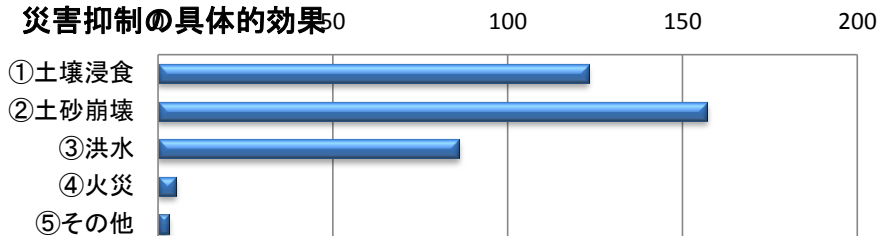
多面的機能増進の具体的効果



13-2 【問13-1で②と答えた方にお聞きします。】

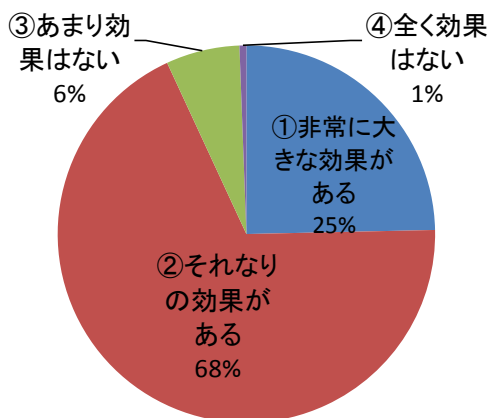
災害の抑制とは具体的にどのような災害が防止されていると思いますか。(複数回答可)

災害抑制の具体的効果

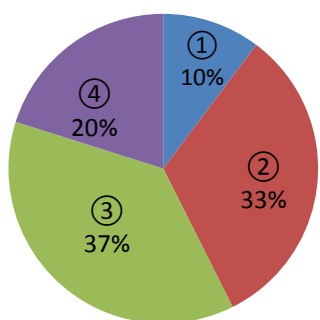


IV 地域・集落の活性化について

問14 本制度は、集落や地域の活動の維持・活性化を促す効果があると思いますか。

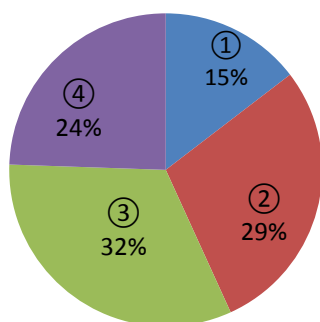


問15 集落の活性化や将来に向けた話し合いについて、協定締結前と現在ではどのように変わりましたか。



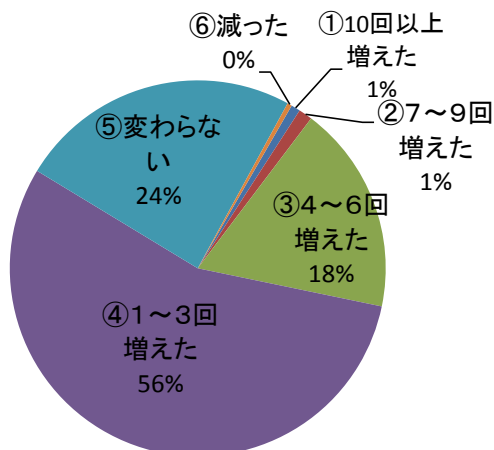
- ①協定締結前から活発に行われている
- ②協定締結前から行っていたが、協定締結を契機に活発に行われるようになった
- ③協定締結前はあまり行われていなかったが、協定締結を契機に活発に行われるようになった
- ④協定締結前からあまり行われていない

問16 共同作業、機械等の共同利用、作業の受委託等の農業に関わる取り決め事項の話し合いについて、協定締結前と現在ではどのように変わりましたか。



- ①協定締結前から活発に行われている
- ②協定締結前から行っていたが、協定締結を契機に活発に行われるようになった
- ③協定締結前はあまり行われていなかったが、協定締結を契機に活発に行われるようになった
- ④協定締結前からあまり行われていない

問17 話し合いの年間の回数は、協定締結前と現在では変わりましたか。

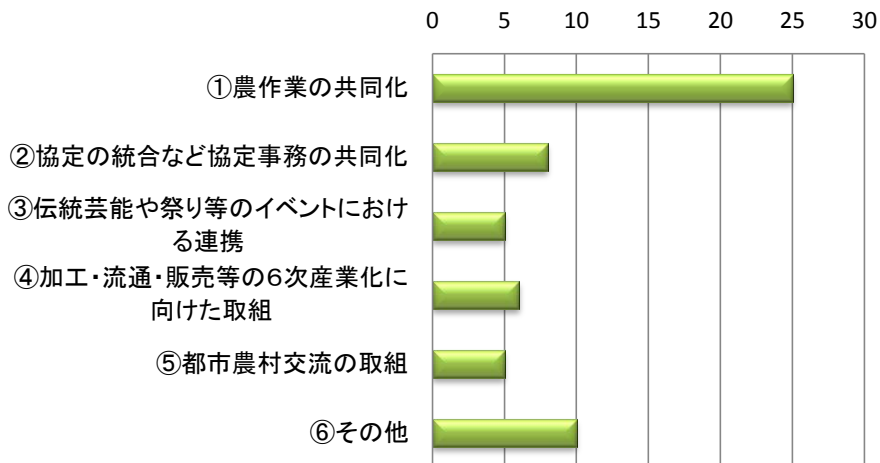


問18 話し合いがきっかけになり協定締結前と現在で何が変わったと感じますか。(複数回答可)



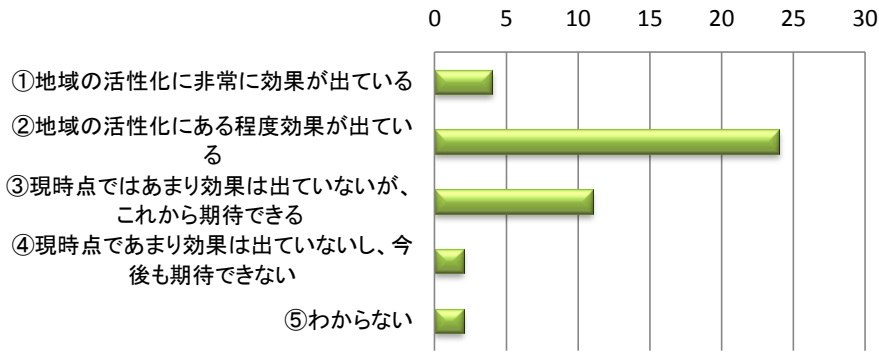
18-1 【問18で⑩を選択した方にお聞きます。】

他の集落とどのような共同の取組を行いましたか。(複数回答可)



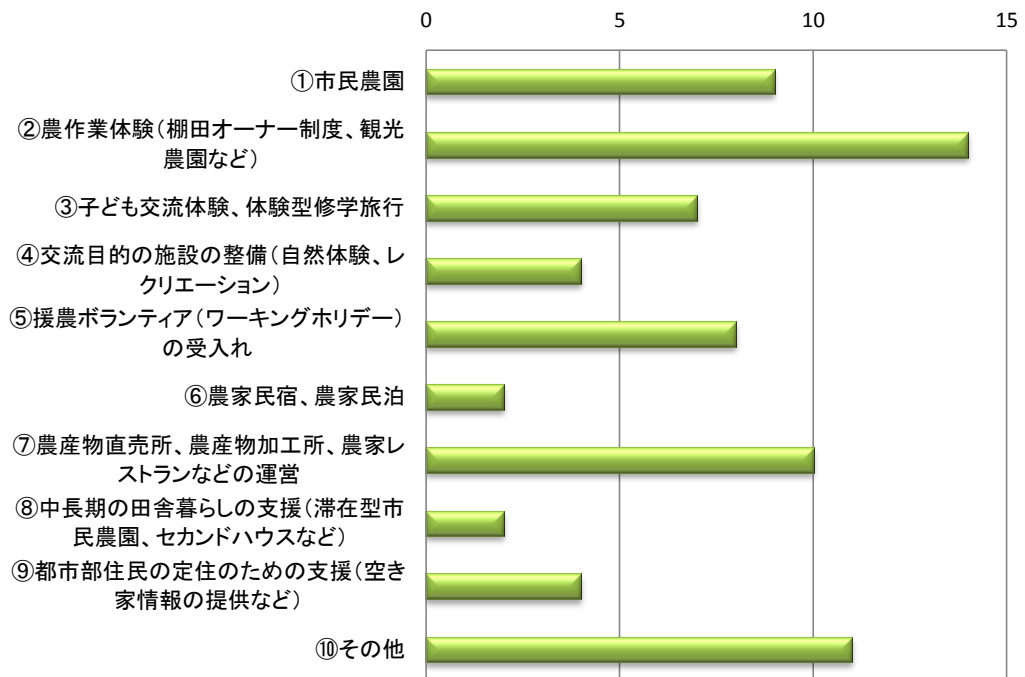
18-2 【問18で⑩を選択した方にお聞きします。】

他の集落等との共同の取組による効果は出ていますか。



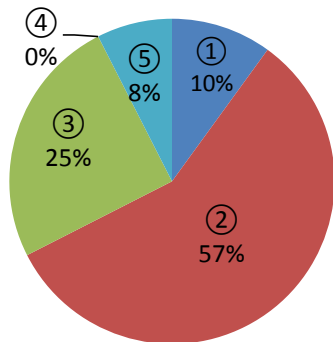
18-3 【問18で⑩を選択した方にお聞きします。】

あなたの集落では、どのような都市農村交流に取り組んでいますか。(複数回答可)



18-4 【問18で⑩を選択した方にお聞きします。】

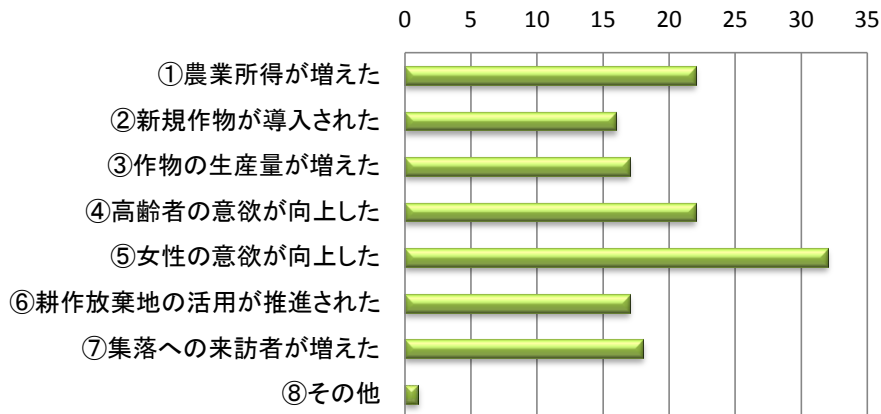
都市農村交流の取組による効果は出ていますか。



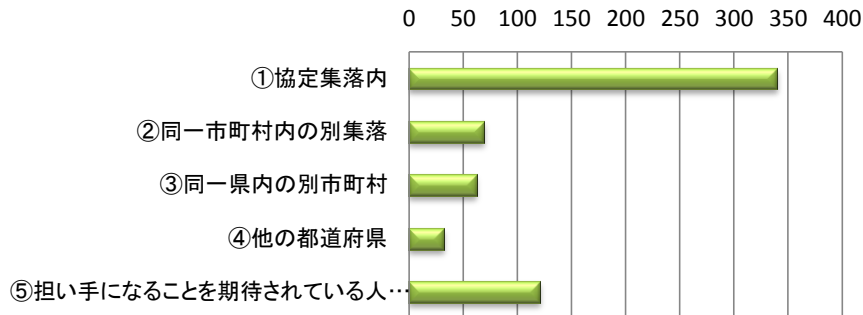
- ①地域の活性化に非常に効果が出ている
- ②地域の活性化にある程度効果が出ている
- ③現時点ではあまり効果は出ていないが、これから期待できる
- ④現時点であまり効果は出ていないし、今後も期待できない
- ⑤わからない

18-5 【問18で③を選択した方にお聞きします。】

地場産農林水産物の直売・加工・販売が始まったことによりどのような効果があったと感じますか。
(複数回答可)

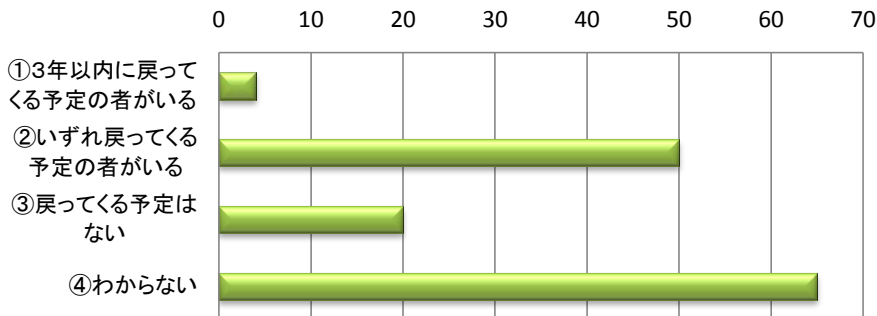


問19 あなたの集落で今後農業生産活動等の担い手になることを期待されている人は、主にどちらに住んでいますか。(1つに絞れない場合は複数選択も可)

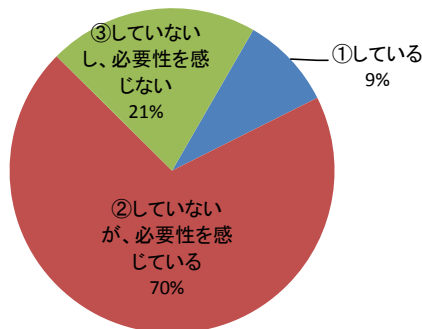


19-1 【問19で②～④のいずれかを答えた方にお聞きします。】

今後担い手になることを期待されている人は、将来的に集落に戻ってくる予定はありますか。

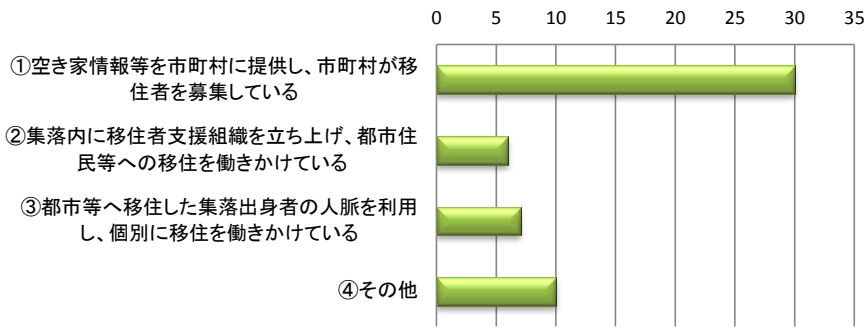


問20 あなたの集落では、定住人口の増加や地域・集落の活性化を図るため、集落の外から人(移住者)を受け入れるための取組をしていますか。



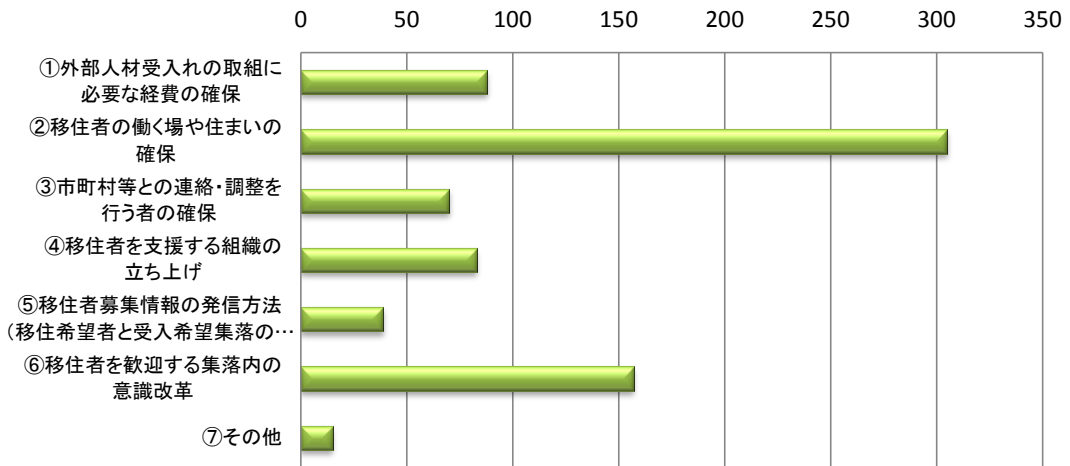
20-1 【問20で①と答えた方にお聞きします。】

外部から人を受け入れるため、どのような取組を行っていますか。(複数回答可)

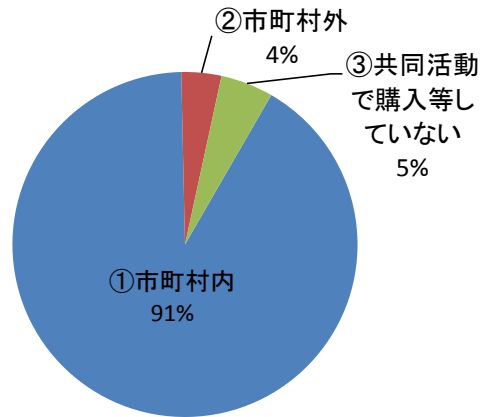


20-2 【問20で①又は②のいずれかを答えた方にお聞きします。】

外部から人を受け入れるに当たっての課題は何ですか。(複数回答可)



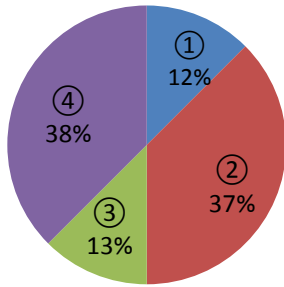
問21 交付金のうち共同取組活動分については、共同機械や資材の購入費あるいは共同作業の出役費等として使用されていると思いますが、主に当該市町村で購入したり支払いされていますか。



V その他

問22 【第3期対策から新たに創設した小規模・高齢化集落支援加算を適用している集落の方にお聞きます。】

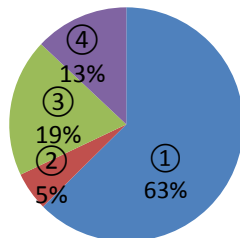
小規模・高齢化集落に対する支援はどのような形で行われていますか。



- ①農作業及び水路・農道等の管理、畦畔の草刈り等の共同取組活動は支援元の集落の担い手等が中心に行っている
- ②農作業は支援元の集落の担い手等が中心に行い、水路・農道等の管理、畦畔の草刈り等の共同取組活動は協定参加者全体で行っている
- ③農作業は支援元の集落の担い手等が中心に行い、水路・農道等の管理、畦畔の草刈り等の共同取組活動は小規模・高齢化集落内の協定参加者が行っている
- ④小規模・高齢化集落内の協定参加者が自己完結的に農業生産活動等を行っている

問23 【現在、基礎単価(8割単価)での交付を受けている協定にお聞きます。】

第3期対策から新たに創設したC要件(集团的サポート型)に取り組まなかった理由は何ですか。



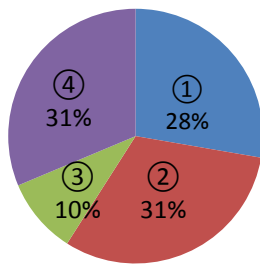
- ①話し合ったが、高齢者が多く受け手となる者を明確にすることが困難だった
- ②受け手となる者はいたが、協定書に明確に位置づけることに抵抗感があった
- ③C要件(集团的サポート型)について話し合ったことはない
- ④C要件(集团的サポート型)の内容を知らなかった

問24 飛び地や小規模団地を協定農用地に取り込みやすくするため、第3期対策から一団の農用地要件を見直したところですが、対象農用地要件を満たすものの協定農用地に取り込んでいない飛び地や小規模団地の面積は集落内にどれくらいありますか。

90 ha

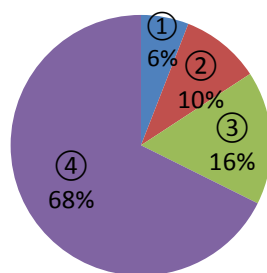
24-1 【問24で面積を記入した方にお聞きます。】

対象農用地要件を満たすものの協定農用地に取り込んでいない飛び地がある理由は何ですか。



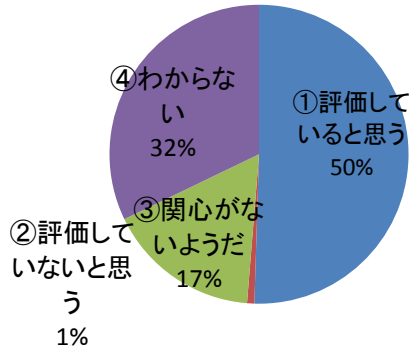
- ①飛び地までの距離があり、取り込むことに協定参加者の理解が得られなかったため
- ②団地間の農道・水路等管理活動の共同取組活動を行う労力が大変なため
- ③要件の緩和があったことを知らなかった
- ④その他

問25 本制度においては、平成23年度から、「市町村は、条件不利地における農業者等への適切な格差是正のため、交付金の交付額の概ね1/2以上を個人配分に充てることが原則であること、なお、交付金の用途は協定参加者の合意により決定されることから、これまでと同様に地域の状況に応じた交付金の活用が可能であることについて指導する」とされました。このことについて、協定参加者からどのような意見が寄せられていますか。

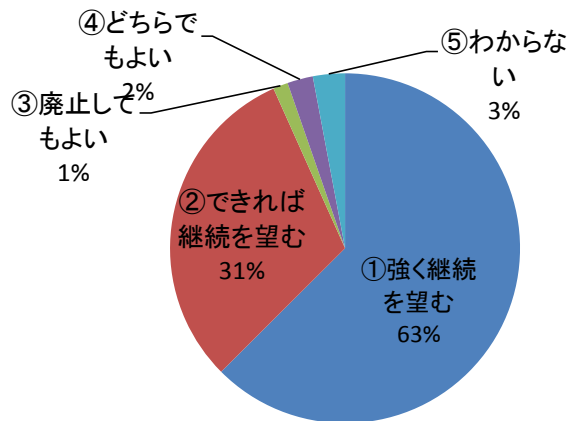


- ①個人配分を増やすべきとの声が多数
- ②共同取組活動分を増やすべきとの声が多数
- ③個人配分を増やすべきとの声と共同取組活動分を増やすべきとの声のいずれもある
- ④これまで集落で決めてきた配分割合でよいとの声が多数

問26 協定に参加していない周辺住民の方は、あなたの集落のさまざまな活動を見てどのように感じていると思いますか。



問27 本制度の実施期間は平成26年度までとなっていますが、平成27年度以降についてどのように考えますか。



問28 本制度の協定期間中で発生した課題、本制度に対するご意見、ご要望及び本制度に取り組んでの感想等があれば自由に記入してください。

「制度の継続」「事務の軽減」「緩傾斜地の支援単価見直し」「協定期間(5年)の短縮」